れば強い

弁護士 金子博人

は全く異なる。

とはあらゆる点で対極的だ。

信じがちである。しかし、

第29回 変わりたいのに変われないのはなぜか(その2) 韓国は変わるが日本は駄目

下僕だった。ヤノペインのヤンパンに対し、他はすべてのヤンパンに対し、他はすべて る。韓国社会は、日本のタテ社れるメカニズムは根本的に異なしやすいが、上下の意識が生ま で韓国を治めた。李氏朝鮮の特年から1910年の日韓併合ま年から1910年の日韓併合ま らは耕作をしない。韓国社会の 農村の地主はヤンパンであり自 と書き、儒者のことである。上 とはまったく異なるものである。 るもので、日本の「タテ社会」 上下関係はヤンパンを前提とす 流階級であり支配階級であった。 下僕だった。ヤンパンは「両班」 本と同じ先輩、 韓国社会を表層的にみると、 日本社会と同じと勘違いに同じ先輩、後輩の序列が

と抗争しながら存立を維持しな性を作ったのだろう。常に周り 侵入の無い平和で閉鎖的なムラ逞しくしたのである。異民族の 場所のない圧迫感が独特の国民 信じがちである。しかし、事実人と近い国民性をもっていると Qを常に受けていた。その行き6、太古の昔から巨大中国の圧三方を海に囲まれた朝鮮半島 韓国社会は日本 韓国人を に属する「ムラ」だけなので、社会が機能するのは自分が現実ているからだ。日本では、タテ 列が自己の所属集団に限られる的に多い。韓国では、上下の序をゆずる者は韓国のほうが圧倒 ことは無く、 見ず知らずの老人は単なる「赤 と複雑で広範囲である。 働く序列意識を持つ。そのため、 の他人」であり、自分とは無関 -だけの ゆずる者は韓国のほうが圧倒公共の乗り物内で、老人に席 国の序列意識は日本よりずっ 会全体で、 序列というの 社会全体で機能し 何時でもどこでも でなく

迫を常に受けていた。その行は、太古の昔から巨大中国の

でもない タテ タテ社会でも甘え社会

に異なるものなのだ。

な日本人の国民性とは、

本質的

で培養された、「甘え」たっぷり

係となってしまうのだ。

ければならい宿命が、

会といえる。対の日本とは決定的に異なる社親の権威が絶対である。母親絶 徹底して父系制社会であり、父構造」は韓国にはない。韓国は 母権絶対社会が作る「甘え 0

一方では父親の権威に服し、他一方では父親の権威に服し、他身は甘やかすようだ。韓国人は、底している。その分韓国では、底している。その分韓国では、極威は絶対だ。父親の前ではが、大きには、 一つかもしれない。
方で母には甘える。その複雑さ方で母には甘える。 韓国では、 父権は子供を絶対

> 争は厳しく、日本以上だ。向が強いのだ。その結果受験戦るという意識は無く、上向き志 ことは決してない。 義者であり、集団 ないので韓国人は極めて個人主 を作り、それに安住するような 一の中で安住す 甘え社会で

必要な人間はそもそも未熟な人新人教育などない。新人教育が 実力をつけていなければ、いい業経験などを身につけ、本当の以外に、留学経験、語学力、就 人教育までしてくれる。ところ新卒採用主義で迎えてくれ、新 うことで頑張る。現に、企業はに行けばいい会社に入れるとい 間であり、役に立たないもの 就職口は無い。勿論、入社後の が韓国企業は厳しく、そこには して門前払いである。 「甘えの構造」は無い。受験勉強 「新卒採用主義」というような 日本の受験戦争は、いい大学 ていく。社長は、強い父親の代社長がトップダウンで引っ張っもたれ合いの社会でなく、逆にもといら形成されたが、韓国はそとから形成されたが、韓国はそ 族類似の 集団を作るこ

強烈だ。日· あるが、同時に上向き志向韓国では儒教的な身分の序 日本のように年功序列

ると、 したり、中堅企業の幹部となっ40代で多くが辞めていき、起業 ていく。 また、韓国の大企業をみてい 終身雇用もないようだ。 動性は高

のような「ムラ」の

のい外

日本のタテ社会は、

家庭内

もたれあいを外の社会にもち

0

の集団に転移させることはな

韓国人は家庭の

集団性を家庭

 \mathbb{H} 韓国と日本は対 韓国は隣国

で日

The Lawyers May 2012 1

父系制社会と韓国企業

果韓国企業はトップダウンだ。長の命令のもとで動く。その結長の代理人のような中間管理職は社が置かれ、その中間管理職は社は、家庭的な雰囲気は期待でき 長に嫌われたNo.3が突然降格さ 韓国企業と取引していると、社 驚かされることが多い。 れるというような事態に遭遇し、 に服従することになり、そこで 社会の特性は、会社ではオーナ れる。 父親の権威が絶対という韓 長の権威が絶対という形で 雇われた従業員は社長 玉

あり、 課長を中心に家族的な集団が形 護と依存の関係が形成される。 特有の制度が存在することとな となる。ボトムアップの世界で ち上げられ、会社としての決定 成され、そこでの決定が上に持 こに家族類似の集団を作り、保 てくれればよいし、 る。ここではトップの社長はい 日本は課長を兄や親としてそ 稟議制という日本の会社 調整役で十

決定は極めてはやい。私の事務 交渉をしたことがあった。担当 所で韓国企業と日本企業の和解 トップダウンによるものであり、 いう世界である。企業の決定は の担当者はその場で韓国に携 間で合意に達したところ、韓 力量でコントロールされると 韓国企業は日本と逆にトップ 決済権あるものか

> 書いて、 結果、 けるのは必定だ。 これでは、日本企業は競争に負 とが、日本企業は1カ月かかる。 きない。 はこれでOKです」という。 わなければならないのだ。その ない。会社に帰って稟議書をところが日本企業はそれがで 韓国企業は3分で済むこ ハンコをいくつももら

え去ることになる。日本企業はう慎重論の意見と調整され、消 てしまった。 ければならなくなって、 H う外圧で高度経済成長ができた ることは稀で、変われるのは強 その結果、内発的な要因で変わ 見は「そんなの危険だよ」とい が形成されるので、革新的な意 多くの人間の手を経て「総意」 他方日本企業は、 ミックに変化することができる。 い外圧があるときだけである。 本企業は、自ら道を創造しな 「追いつけ、追い越せ」とい 時間をかけて 停滞し

4 韓国の政治

が、 会構造を参考にしてきたようだは、国造りにあたって日本の社韓国は大統領制である。韓国 うのであろう。 もトップダウンの大統領制が合た。父系制の社会は国の仕組み 議院内閣制は採用しなかっ

的である。決定と実行は極めて ことが決まり、 政治が動くし、 治が動くし、トップダウンで韓国では大統領個人の権威で 高度に中央集権

らその場で了解を取って「当

その結果、韓国企業はダイナ

易協定FTAを結び、世界中ではじめ多くの国と次々に自由貿提に、アメリカやヨーロッパを える構造としている。それを前ることに成功し、国際競争に耐 日本のマーケットを侵食してい 迅速となる。 韓国はすでに農業を産業化す

きず、 なり、TPP(Trans-pacific ぼうとすれば、 権益を握っている人間を排除で 保護に汲々としている。ここで れば、大騒ぎとなる。 い兼業農家や小規模専業農家の Partnership) に加入しようとす 日本は、いまだに生産性の低 自由貿易協定FTAを結 反対の大合唱と

会とは異質だからだ。 整社会であり、父系制の韓国社 でも、その声を排除できないの 全体では多数派ではない。それ 業に利権を持っている者は日本 とはいえ、声は大きくても農 日本社会がもたれあいの調

5 へ発展する 韓国の変化は速く海外

な脅威となるであろう。 常に日本の競争相手となる存在 多くの産業分野が日本と競合し、 目標に国を発展させてきたので、 だからだ。しかも韓国は日本を も政治もこの様にトップダウン スピードは速い。それは、 だ。その韓国の変化が速いので、 来にわたって日本にとり大き いずれにしても韓国 数字をみると愕然とする。 の変化の 企業

> 度だ。日本はいつの間にか、といる。他方日本はわずか16%程る割合は50%に達しようとして となっている。 ても貿易立国とは言えない 玉 では、 50%に達しようとして 出 額 0) GDP に占 、状況 め

れでも変われない。それが今の迫られているはずなのだが、そ 日本は、徹底した制度改革に

(かねこ・ひろひと)金子博人

韓



金子博人法律事務所

〒104-0061 東京都中央区銀座8丁目10番4号 和孝銀座8丁目ビル7階 http://www.kaneko-law-office.jp

掲載内容の無断転載・転用を固く禁じます。